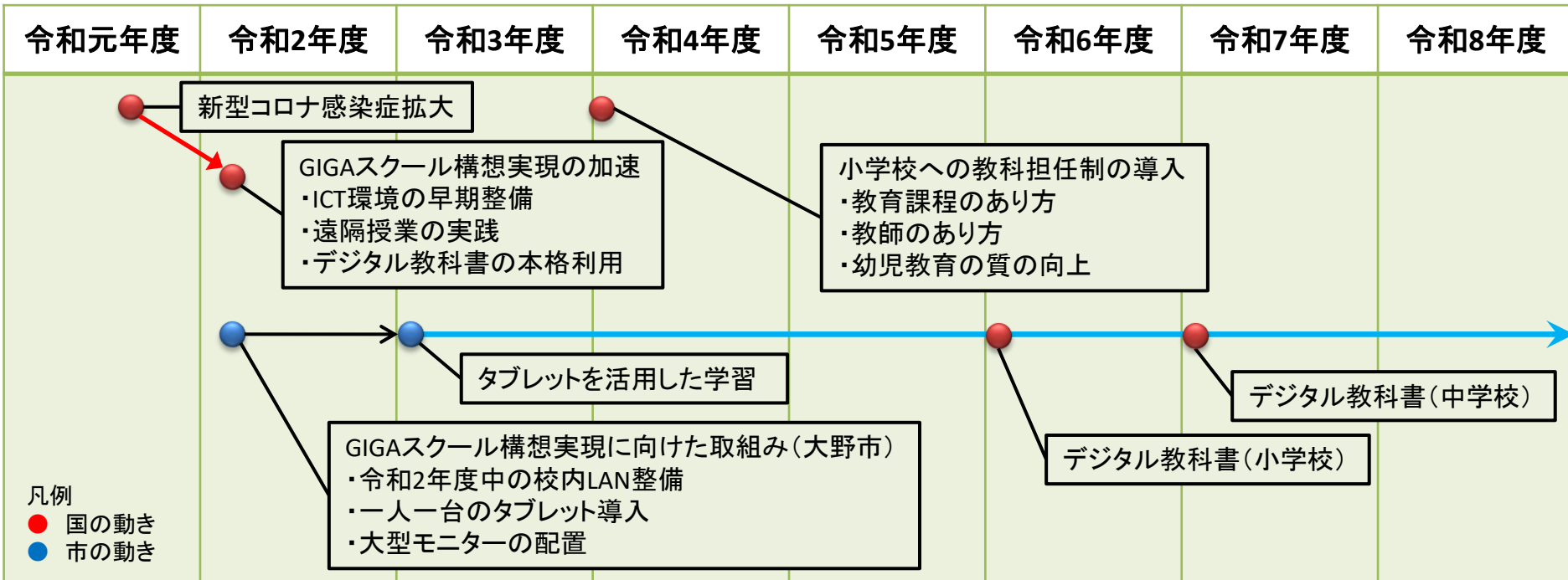


教育をとりまく環境の変化



世界に先駆けた「超スマート社会」の実現(Society 5.0)、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)。

狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画(平成28年(2016年)1月閣議決定)において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。

Society5.0の推進

Society 5.0における学びのあり方、求められる人材像

A I等の先端技術がもたらすもの ⇒ **学びのあり方の変革**へ

学校が変わる。学びが変わる。 ⇒ Society5.0における学校(「学び」の時代へ)

- ・一斉一律授業の学校 → 読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場へ
- ・同一学年集団の学習 → 同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大
- ・学校の教室での学習 → 大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラム

共通して求められる力

：文章や情報を正確に読み解き対話する力、科学的に思考・吟味する力
 価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

新たな社会をけん引する人材：技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材

様々な分野においてA Iやデータの力を最大限活用し展開できる人材 等